

若者サポートステーション・シナノ について

令和3年11月24日

令和3年度第2回上田市総合教育会議 資料2-1

「中学校卒業後の支援等について」



就労を目指す若者たちの無料相談所

また、失敗しそうで怖い

味方になってくれますか

俺、33歳だけど、行ける？

働いて自立したい

コミュニケーション苦手だし...

変わりたい気持ちはあるけど

職場の人間関係って、なんとかなる？

仲間って、できますか？

中退した私が相談できる場ってある？

自分に合う仕事ってあるのかなあ

ホントに就職できるの？

愚痴ってもいいの？

面接とか、マジ無理

私に自信を与えて！

働きたいけど、相談できる人、ほしいな

就職率 61.9% ホント？

周りが働きだしてあせる...

どんな雰囲気？

サポステ
地域若者サポートステーション

地域若者サポートステーション事業

- * 地域若者サポートステーション（愛称：「サポステ」）
 - * 働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者に対し、キャリア・コンサルタントなどによる専門的な相談、ビジネススキル講座などによるステップアップ、また就労体験などにより就労に向けた支援を行っています。
 - * 現在は、就職氷河期世代の支援が開始され、40代の方までサポートの対象になっています。
 - * サポステは、厚生労働省が認定した全国の若者支援の実績やノウハウのあるNPO法人、株式会社などが実施しており、令和3年度は全国177か所に設置されています。

サポステの支援対象者

「働きたいけど、どうしたらよいのかわからない・・・」、

「働きたいけど、自信が持てず一步を踏み出せない・・・」、

「働きたいけど、コミュニケーションが苦手で・・・不安」、

「働きたいけど、人間関係のつまずきで退職後、ブランクが長くなってしまった・・・」

など、働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者の就労を支援しています。

サポステのサービス

サポステ相談支援事業

- * キャリア・コンサルタントなどによる職業的自立に向けた専門的相談
- * 各種就職支援プログラム(職場体験など)
- * 各種セミナーを通じた啓発、他の若者支援機関への誘導

サポステのサービス

* 若年無業者等集中訓練プログラム事業

※一部のサポステで実施

- * 合宿形式を含む生活面等のサポートと職場実習の訓練を集中的に実施。
- * 職場実習（OJT訓練）による基礎的能力の付与
- * 基礎的資格の取得支援
- * 就職活動の基礎知識等の獲得

現在の雇用状況

- * 非正規雇用は労働者全体の3分の1を超えている。
- * 特に15歳～24歳の若年層で、1990年代半ばから2000年代初めにかけて大きく上昇している。
- * また、雇用形態別に見ると、近年、契約社員や派遣社員が増加している。

現在の雇用状況

- * 有効求人倍率は1.16倍（長野県1.38倍）
- * 非正規雇用は雇用全体の36.3%
- * 正規雇用を目指す若者にとっては非常に難しい状況
- * 親が就労を開始した時期とは差があり、誰もが正社員として働くことはできない時代になっている。

若年者の非社会的傾向の増加

不登校（**19万人**）

パラサイトシングル（**1200万人**）
34歳まで（**1100万人**）

若年者の非社会的傾向の増加

* ニート(84万人)

Not in Education, Employment or Training

15～34歳

教育、職業、職業訓練のいずれにも参加していない

若年者の非社会的傾向の増加

* 引きこもり

外との交流を避け、原則6ヶ月以上家庭に留まり続けている状態

推計ではあるが、引きこもりは100万人を超えている。(コンビニ程度、趣味に関することでは出かけられる。を含む)

(内閣府・2018年発表)

若年者の非社会的傾向の増加

特に引きこもりなど、
社会から長期に渡って離れた場合
社会復帰をするまでに
多くの時間がかかる傾向がある。

20～59歳の未婚者のうち(通学中を除く)、
仕事をしていないだけでなく
一日中ずっとひとりであるか、
そうでなければ
家族しか一緒にいる人がいない人たち。

「孤立無業」は英語で
Solitary No-Employed Persons

S N E P

最新の調査である2006年には107万人。
1996年には35万人だったスネップは10年で3倍に増加。

10代への支援

- * 10代では、自分の意志で来所する方は少なく、支援者や保護者が先につながるケースが多い。
- * 不登校、又は高校中退予定の方は、学校の先生やSSWの紹介でサポステにつながることもある。

ケース①

- * 19歳女性
- * おとなしく、周りに合わせるようなタイプの女性。
- * 高校(皆勤)卒業⇒飲食店に就職
- * 仕事がうまくいかず4か月ほどで退職
- * ハローワークで再就職を探すが専門援助の窓口を紹介され憤慨 ⇒ サポステ来所

ケース①

- * 中学では学力は低い方だったが、大きな問題はなく卒業。
- * 高校へ進学。高校は楽しく、一度も休むことなく卒業。高校では学力もそれなりに高かった。
- * 皆勤の生徒ということで、就労先の印象も良く、スムーズに就労決定。
- * 就労を開始したが、混雑時の対応ができず、パニック状態になることが多かった。優しく指導をしてもらっていたが、解消できず。母と店長も交えての話し合いの末退職。

ケース①

- * 母はクレマー気質なところがあり、娘は悪くないというスタンス。店長とはかなりやりあった様子。
- * 退職が決まってからは、すぐに働かなくてとはと、ハローワークへ来所。
- * ハローワークの窓口では専門援助の窓口(障害者対応の窓口)に行くように促され憤慨。ハローワークには行かなくなった。
- * その後サポステへ来所。

ケース①

来所後

- * すぐに就労したいとのことで、就職活動を開始。
- * 応募先を決定し、書類作成、面接練習。
- * その中では、自己決定の弱さ、話の理解度の低さが感じられた。
- * 応募書類の作成時に泣き出してしまう、それをきっかけに少しずつ本心を話すことができた。

ケース①

来所後

- * 母への状況説明をし、病院受診へ誘導。
- * 知能検査から、軽度の知的障害であることが判明し、手帳を取得。
- * 一般企業で働くのではなく、福祉的な支援を受けることとなった。

ケース②

- * 15歳男性
- * 中学の1年生から不登校気味
- * 支援級に通うようになったが、クラスメイトとトラブルになり登校日数は減少。
- * 中学卒業を前に、SSWよりサポステへ誘導。
- * 中学卒業後、通信制の高校に入学 ⇒ 数か月で退学

ケース②

- * 本人が母と来所するが、机に突っ伏したままで何も話せないような状況。
- * 母は学校側への怒りが強く、母の話聞く必要があった。
- * 本人は通信制高校を退学し、その後フリースクールに通うがそちらも退学。

ケース②

- * 失敗経験が多く、新しいことを始めることが難しい状況が続いた。
- * 時間をかけて関係性を構築し、少しずつ本人も話ができるようになった。
- * その後、原付の免許を取得。
- * アルバイトを開始することができた。

ケースについて

- * ケース②のように、中高卒業後の進路が決まっていなないケースの場合、そのまま引きこもりになってしまう場合が多いと感じる。
- * ケース①ではハローワークからサポステにつながることはできたが、退職後（又は高校、大学中退後）の長期引きこもりになる可能性も高い。
- * 長期の引きこもりを避けるためにも、なるべく早期に支援者とつながる必要がある。

基本的な生きる力

- * 人に相談する
- * 相談できる仲間(家族、友人、先輩)、環境を作る
- * そのアドバイスの中から、自分に合ったものを選び動いていく
- * 継続的に動いていくために余暇の使い方を考える